

小児がん拠点病院 現況報告書

令和3年9月1日時点について記載

チェック欄に
未入力なし

病院名	大阪市立総合医療センター				
よみがな	おおさかしりつそうごういりようせんたー		✓		
郵便番号	〒 534-0021		✓		
住所	大阪府	大阪市都島区都島本通2丁目13番22号	✓		
よみがな	おおさかしみやこじまくみやこじまほんどおり2ちょうめ13ばん22ごう		✓		
電話(代表)	06-6929-1221		✓		
FAX(代表)					
e-mail(代表)					
HPアドレス	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/				
診療科	開設診療科数	58	✓		
	診療科名(具体的に記載)	総合診療科、感染症内科、乳腺外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科、口腔外科、整形外科、形成外科・小児形成外科、皮膚科、婦人科、精神神経科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓・高血圧内科、泌尿器科、腎移植・透析部、脳神経外科、脳血管内治療科、脳神経内科、循環器内科、心臓血管外科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、肝臓内科、消化器外科、肝胆膵外科、腫瘍内科、血液内科、緩和医療科、放射線腫瘍科、産科、新生児科、小児総合診療科、小児代謝・内分泌内科、小児血液腫瘍科、小児脳神経内科、小児循環器内科、小児不整脈科、小児外科、小児整形外科、小児泌尿器科、小児心臓血管外科、小児脳神経外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児言語科、児童青年精神科、小児救急科、放射線診断科・中央放射線部、病理診断科、リハビリテーション科、遺伝子診療部、麻酔科・手術センター、集中治療部、救命救急センター・救命救急部、外傷センター、初期急病診療部	✓		
外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8時45分～11時00分	✓
	曜日		時間	時00分～時00分	
	曜日		時間	時00分～時00分	
外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	9時00分～17時00分	✓
	曜日		時間	時00分～時00分	
	曜日		時間	時00分～時00分	
休診日	毎週土曜日、日曜日、その他(年末年始、祝日)			✓	
初診時の予約	一部の診療科で必要	(すべての診療科で必要/一部の診療科で必要/不要)		✓	
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要	(すべての診療科で必要/一部の診療科で必要/不要)		✓	
病床数	総病床数	1,063	床	✓	

診療実績 (令和2年1月1日～12月31日)

年間入院患者延べ数 ※1	5,783	人	✓
年間入院小児がん患者延べ数 ※1	842	人	✓
年間入院患者延べ数に占める小児がん患者の割合	14.6	%	
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	8,105	日	✓
外来小児がん患者延べ数 ※3	10,941	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者実数 ※4	10	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者延べ数 ※5	23	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者延べ数 ※6	236	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関実数 ※7	183	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者延べ数 ※8	217	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関実数 ※7	147	機関	✓

※1 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者の総数(延べ数)を計上する。当該年に同一患者が2回入院した場合は2人と
 ※2 初診日や初発・再発に関わらず、当該年に入院した小児がん患者の入院患者数の延べ数で計上する。入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1日として計上する。

※3 診断時18歳以下を対象とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※4 診断時18歳以下を対象とし、総数(実数)を計上する。終末期の患者だけではなく、緩和ケアチームが検討した結果、診察・薬剤・リハビリなど診療行為の対象となった患者を含むが、カンファレンスのみを行い、実際の診療行為が行われていない患者は含まない。

※5 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、当該年に2回セカンドオピニオンを行った患者は、2人と計上する。

※6 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、フォローアップ目的の照会を含む。

※7 重複のない実数を計上する。

※8 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、紹介時には18歳を超えていても構わないが、がんに関連しない疾患での紹介(齲歯に対する歯科診療など)は含まない。転院目的での紹介は含むが、同時期に複数病院へ同一内容で紹介した場合は1人と計上する(同時期に異なる内容で紹介または異なる時期に同一内容で紹介の場合は別で計上する)。

小児がんに関する専門外来の名称	小児血液腫瘍外来、長期フォローアップ外来	✓
-----------------	----------------------	---

1 診療体制

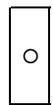
(1) 診療機能		A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない	チェック欄に未入力なし
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供				
小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	8 ✓
専門とするがんについて別紙1に記載すること。		別紙1		9
小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種への参加を求めている。カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。	A	はい	(はい/いいえ)	10 ✓
カンサーボードの開催回数（令和2年1月1日～12月31日）	-	148	回	11 ✓
小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	12 ✓
長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	-	はい	(はい/いいえ)	13 ✓
エ AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	15 ✓
オ 急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)	17 ✓
カ 治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。	B	はい	(はい/いいえ)	18 ✓
がんの治療に際する妊孕性温存治療を自施設で実施できる	-	いいえ	(はい/いいえ)	19
生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙2に記載すること。		別紙2		20
キ 保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	21 ✓
② 薬物療法の提供体制				
薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい	(はい/いいえ)	23 ✓
③ 緩和ケアの提供体制				
ア 小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	26 ✓
緩和ケアチームの組織・体制について別紙3に記載すること。		別紙3		27
イ 外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	29 ✓
緩和ケア外来について別紙4に記載すること。		別紙4		30
ウ 緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	31 ✓
緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数（令和2年1月1日～12月31日）	-	107	回	32 ✓
エ 院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	33 ✓
情報提供の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のWebサイトに掲載）	-	当院のHPIに掲載		34
オ 小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	35 ✓
カ 小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	36 ✓
緩和ケア病棟について別紙5に記載すること。		別紙5		37
④ 病連携・病診連携の協力体制				
ア 小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	39 ✓
イ 小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	41 ✓
患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス（拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。）を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	42 ✓
ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	43 ✓
⑤ セカンドオピニオンの提示体制				
小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン（診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。）を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	45 ✓
セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙6に記載すること。		別紙6		46
⑥ その他				
小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい/いいえ)	48 ✓

(2) 診療従事者				49		
用語の定義: 専任: 当該診療の実施担当で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従: 就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。				50		
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置				51		
ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	11	人	1人以上	52	✓
放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	11	人		53	✓
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	47	人		54	✓
薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	5	人	1人以上	55	✓
薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	5	人		56	✓
薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	5	人		57	✓
薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	5	人		58	✓
ウ 緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	3	人	1人以上	59	✓
緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	3	人		60	✓
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	12	人	1人以上	61	✓
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	12	人		62	✓
緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	15	人		63	✓
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	15	人		64	✓
受講率	-	100.0	%		65	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人		66	✓
受講率	-	20.0	%		67	
小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	23	人		68	✓
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	23	人		69	✓
受講率	-	100.0	%		70	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人		71	✓
受講率	-	13.0	%		72	
エ 病理診断に携わる医師の人数。	-	6	人		90	✓
病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	6	人	1人以上	91	✓
病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	4	人		92	✓
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置				93		
ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	7	人	1人以上	94	✓
放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	7	人		95	✓
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	2	人	1人以上	96	✓
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	2	人		97	✓
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	15	人		98	✓
薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	15	人	1人以上	99	✓
ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	9	人		100	✓
緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	9	人	1人以上	101	✓
緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	3	人		102	✓
緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	2	人		103	✓
エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	5	人		104	✓
オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	11	人		105	✓
うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	5	人		106	✓
カ 小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	5	人		107	✓
小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士の人数	-	1	人		108	✓
小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	3	人		109	✓
医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	1	人		110	✓
③ その他				111		
ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)		112	✓
拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)		113	✓
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)		114	✓
論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)		115	✓
(3) 医療施設				116		
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置				117		
ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい/いいえ)		118	✓
イ 集中治療室を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)		119	✓
集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室(ICU)の数	-	16	床		120	✓
集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室(PICU)の数	-	12	床		121	✓
ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)		122	✓
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙7に記載すること。	-	別紙7			124	
小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(令和2年1月1日～12月31日)	-	0	回		125	✓
② 敷地内禁煙等				126		
敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)		127	✓
敷地内は全面禁煙である。	-	はい	(はい/いいえ)		128	✓

(4) 診療実績				
① 小児がんについて年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	129 ✓
② 固形腫瘍について年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	130 ✓
③ 造血器腫瘍について年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	131 ✓
診療実績等について別紙1および別紙9に記載すること。			別紙1・別紙9	132 ✓
(5) その他				
① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	133 ✓
特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい	(はい/いいえ)	134 ✓
特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい	(はい/いいえ)	135 ✓
② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	136 ✓
公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい	(はい/いいえ)	137 ✓
日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい	(はい/いいえ)	138 ✓
③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい	(はい/いいえ)	139 ✓
上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい	(はい/いいえ)	140 ✓
配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	3	人	141 ✓
配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	3	人	142 ✓
2 研修の実施体制				
小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	143 ✓
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙9に記載すること。			別紙9	144 ✓
3 情報の収集提供体制				
(1) 相談支援センター				
小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	145 ✓
広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		当院のホームページ、院内誌・チラシ・地域への広報誌に掲載、院内に掲示	146 ✓
相談支援センターの体制について別紙10に記載すること。			別紙10	147 ✓
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙11に記載すること。			別紙11	148 ✓
① 「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	149 ✓
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	150 ✓
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	151 ✓
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	152 ✓
小児がん患者団体等との連携について別紙12に記載すること。			別紙12	153 ✓
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				154
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	155 ✓
アの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	6	件	156 ✓
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	157 ✓
イの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	4	件	158 ✓
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	159 ✓
ウの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	25	件	160 ✓
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161 ✓
エの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	8	件	162 ✓
エのうち、アピアランスに関する相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	4	件	163 ✓
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	164 ✓
オの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	58	件	165 ✓
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	166 ✓
カの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	20	件	167 ✓
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	168 ✓
キの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	1	件	169 ✓
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	170 ✓
クの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	39	件	171 ✓
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	172 ✓
ケの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	9	件	173 ✓
コ その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	174 ✓
コの相談件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	94	件	175 ✓

(2) 院内がん登録			
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい (はい/いいえ)
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい (はい/いいえ)
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	3 人 1人以上
	うち専従者の人数	-	1 人
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい (はい/いいえ)
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい (はい/いいえ)
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい (はい/いいえ)
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい (はい/いいえ)
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい (はい/いいえ)
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい (はい/いいえ)
(3) 診療実績、診療機能等の情報提供			
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい (はい/いいえ)
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	当院のHPに掲載
4 臨床研究に関すること			
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい (はい/いいえ)
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい (はい/いいえ)
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい (はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内の掲示、当院のホームページへの掲載や研究倫理審査委員会報告システムへの登録
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい (はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	内の見やすい場所に掲示して
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい (はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	院内の掲示、院内誌・チラシ・地域の広報誌等で広報、当院のホームページに掲載
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい (はい/いいえ)
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年月 (西暦XXXX年XX月)
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい (はい/いいえ)
	臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	13 人
	臨床研究の問い合わせ窓口について別紙13に記載すること。	-	別紙13
	臨床研究の実施総件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	30 件
	臨床試験以外の臨床研究実施総件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	19 件
	治験の実施総件数(令和2年1月1日～12月31日)	-	4 件
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備			
(1)	保育士を配置している。	A	はい (はい/いいえ)
	保育士の人数	-	7 人
	保育士のうち常勤の人数	-	7 人
(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい (はい/いいえ)
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい (はい/いいえ)
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	いいえ (はい/いいえ)
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい (はい/いいえ)
	高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい (はい/いいえ)
(3)	退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい (はい/いいえ)
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい (はい/いいえ)
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい (はい/いいえ)
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい (はい/いいえ)
	部屋数	-	8 部屋
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい (はい/いいえ)
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙14に記載すること。	-	別紙14
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いのできる体制を構築している。	A	はい (はい/いいえ)
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい (はい/いいえ)
6 PDCAサイクル			
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい (はい/いいえ)
	把握・評価の方法、改善策等について別紙15に記載すること。	-	別紙15
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい (はい/いいえ)
	地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	当院のHPに掲載
7 医療安全体制			
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい (はい/いいえ)
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい (はい/いいえ)
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい (はい/いいえ)
(4)	当該施設で承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい (はい/いいえ)
	当該施設で承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。		
①	当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい (はい/いいえ/-)
②	事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい (はい/いいえ/-)
③	提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい (はい/いいえ/-)
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい (はい/いいえ)
	医療安全体制について別紙16に記載すること。	-	別紙16

Aの
充足
状況



○
○
○

○

○

○

○

○

○

○
○
○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○
○
○

○
○

○

○

○
○
○

○

○

○

○
○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

その他の小児固形腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数											各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門とする医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野
1 小児外科	5	5	○	×	×	×	×	×	×	×		小児血液・がん学会認定の小児がん認定外科医が在籍しています。	小児外科	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/child/ana/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 小児血液腫瘍科	8	8	×	○	×	×	×				治療や先進医療も行っています。	小児血液腫瘍科	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/child/k/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 放射線腫瘍科	4	4	×	×	○	○	×				リンパ節転移・骨転移などに緩和的放射線治療をしています。	放射線腫瘍科	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/sup/h.s	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
4 小児耳鼻咽喉科	8	3	○	×	×	×	×	×	×	×	頭頸部腫瘍の手術的治療を行っています。	小児耳鼻いんこう科	https://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/child/11/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
5																	
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください											治療名	治療内容					
他の治療(1)																	
他の治療(2)																	
他の治療(3)																	
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)											神経芽腫、Wilms腫瘍、肝芽腫、奇形腫、胚細胞腫、大腸癌、甲状腺癌、退形成小円型細胞肉腫、悪性ラブライド腫瘍、腎細胞肉腫、腎細胞がん、副腎皮質癌						

小児血液腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数											各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門とする医師数	化学療法	移植			放射線療法			※下記のその他の治療法欄と合わせてください		※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または調剤血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)				他の治療(2)	他の治療(3)	見出し	アドレス	治療内容
1 小児血液腫瘍科	8	8	○	○	○	○	×	×				HLAが合わない移植やミニ移植に積極的に取り組んでいます。	小児血液腫瘍科	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/child/k/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 放射線腫瘍科	4	4	×	×	×	×	○	○			移植前の全身照射を行っています。	放射線腫瘍科	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/sup/h.s	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3																	
4																	
5																	
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください											治療名	治療内容					
他の治療(1)																	
他の治療(2)																	
他の治療(3)																	
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)											急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、非ホジキンリンパ腫、慢性骨髄性白血病、ホジキンリンパ腫、ラングラーハンス細胞組織球症						

生殖機能の温存の支援を行う体制

記載の有無 あり
※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在(実績は令和2年1月1日～12月31日)

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(令和2年1月1日～12月31日)	5	OK
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(令和2年1月1日～12月31日)	2	
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数(令和2年1月1日～12月31日)	0	

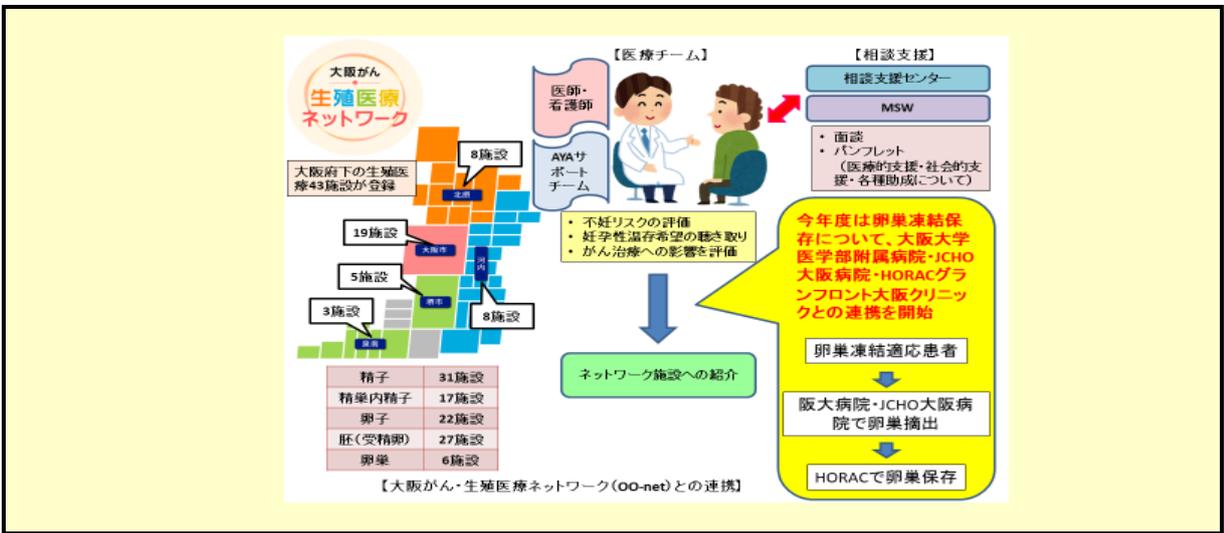
■がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制について記載すること。

- ①相談に対応している部署(例: がん相談支援センター、化学療法室等) がん相談支援センター (複数回答可)
- ②がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(令和2年1月1日～12月31日) 7 (複数回答可)
- ③紹介先施設名 HORACグランフロント大阪、IVFなんばクリニック、大阪大学医学部附属病院 (複数回答可)

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙2を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

- 別添資料の提出有無 なし (あり/なし) **OK**
- ファイル形式 (ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)
- その他の場合ファイル形式を記載してください。



緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無 あり
 ※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数: 11 OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報を記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		緩和ケアチーム		
職種		常勤/非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	緩和医療科	日本小児科学会専門医、カーディフ大学緩和ケア認定医、日本緩和医療学会暫定指導医
2	医師	常勤	緩和医療科	日本小児科学会専門医
3	医師	常勤	児童青年精神科	日本精神神経学会認定精神科専門医(2013)、指導医(2014年)、精神保健指定医(2012年) 日本総合病院精神医学会専門医(2014年) 日本総合病院精神医学会指導医(2017年)
4	看護師	常勤	緩和ケア	小児看護専門看護師
5	看護師	常勤	緩和ケア	緩和ケア認定看護師
6	薬剤師	常勤	緩和ケア	日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師
7	公認心理士	常勤	心理	公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会公認心理師
8	ホスピタル・プレイスベシャリスト	常勤	保育	ホスピタル・プレイスベシャリスト(英国)、保育士
9	MSW	常勤	相談	精神保健福祉士、社会福祉士
10	管理栄養士	常勤	栄養管理	管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士

緩和ケア外来の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 大阪市立総合医療センター
 時期・期間: 令和3年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている (はい/いいえ)				はい	OK
2	緩和ケア外来の名称	緩和医療科外来				
3	担当診療科名	緩和医療科				
4	主な診療内容・特色	疼痛緩和、症状緩和、療養場所の選択、心理社会的な支援、地域・在宅医療チームとの連携など				
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ	見出し	緩和医療科			
		アドレス	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/int/kanwairyouka/			
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)				いいえ	
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)				はい	OK
	窓口の名称	がん相談支援センター				
	電話	代表	06-6929-1221	(内線)		直通
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)				はい	OK
	窓口の名称	がん相談支援センター				
	電話	代表	06-6929-1221	(内線)		直通

緩和ケア病棟の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 大阪市立総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟があります			
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理	届けて受領されている			
3	小児の入院可否	可			
4	緩和ケア病棟の形式	院内病棟型			
5	緩和ケア病棟の病床数	24	床		
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せず「ホームページからコピーしてください」。	見出し	緩和ケアセンター		
		アドレス	https://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/inv/center/kanwaichiran.html		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)	はい			
8	入院予約後の入院までの特機期間 ※転棟、緊急入院を除く	0日			
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに問わず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1
		医師	3		
		看護師	24		
		看護助手	2		
		薬剤師	2		
		臨床心理士	1		
		MSW	3		
		栄養士	1		
		理学療法士	1		
		クラーク	1		
10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)		はい		
	窓口の名称	がん相談支援センター			
	電話	代表	06-6929-1221 (内線)	直通	06-6929-3632
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)		はい		
	窓口の名称	がん相談支援センター			
	電話	代表	06-6929-1221 (内線)	直通	06-6929-3632
12	緩和ケア病棟の設備		例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、ディールーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室 電磁調理器、談話室、ランドリー、ディールーム、浴室、特殊入浴室、家族控室(2部屋)、冷蔵庫、レンジ、トースター		
	13 訪問看護ケアの有無		例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など なし		

OK
OK

OK

OK

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

記載の有無 あり
※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター
 時期・期間: 令和3年9月1日現在(実績は令和2年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオンについて	アドレス
			http://www.osakacity-hp.or.jp/ocsh/inv/mandan_second.html
問い合わせ先の電話など	対応可能な疾患名	対応した患者数(実績)	担当する医師の情報
			医師名 診療科 専門分野
掲載あり	掲載あり	掲載あり	掲載あり 掲載あり 掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

チェック欄に未入力なし

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	10	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児血液腫瘍科	○	×	○	○	
2人目	小児脳神経外科	○	○	×	○	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応不可	昨年実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目						
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児血液腫瘍科	○	×	○	○	
2人目	小児外科	○	○	×	○	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	12	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児血液腫瘍科	○	×	○	○	
2人目	小児外科	○	○	×	○	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児血液腫瘍科	○	×	○	○	骨髄移植・末梢血細胞移植・造血幹細胞移植等各種臨床試験
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

下のチェック欄で「未入力あり」がないか確認してください

病院名: 大阪市立総合医療センター
 時期・期間: 令和3年9月1日現在

語り合うための場総件数: 4

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

名称	主催者名	病院職員の関与	活動状況		病名	参加対象者		主な活動内容	参加対象者向けの院内の問い合わせ窓口(窓口の名称・電話番号)
			定期/不定期	頻度(回)		院外からの参加(参加可/参加不可)	患者のみ/家族のみ/患者・家族		
例) ○○○会	○○○会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター XXX-XXX-XXXX直通
1 外来交流会	当院	あり	定期	月 1	小児がん	参加不可	患者・家族	HPSが中心となって外来通院中の患者と家族が交流する場を設けている。	がん医療支援センター 06-6929-1221
2 てらこや	当院	あり	定期	週 1	小児がん	参加不可	患者・家族	大阪教育大学生ボランティアとMSW、療育支援室で勉強の個別指導をしている。	がん医療支援センター 06-6929-1221
3 AYAの会	当院	あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者のみ	中学生以上のがんの患者を中心とした患者を対象に気軽に参加し、同じ時間をすごせる会を開催しております。	がん医療支援センター 06-6929-1221
4 全国小児がん大会	NPO法人エスピーロー	あり	定期	年 1	小児がん	参加可	患者・家族	毎年夏に2-3日間、患者と家族が交流する。講演会、勉強会、野外活動などを行っている。	がん医療支援センター 06-6929-1221
5									
6									
7									
8									
9									
10									

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1 患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。						
2 図書室の名称	患者図書室 やわらぎ空間さくら —みんなの医療情報AからZまで—							
3 図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	患者図書室						
※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/about/toshokan.html						
4 利用者の制限	制限なし	その他						
5 医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図書	医学専門書	一般向け医療系図書	雑誌	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌	医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
		300冊以上	300冊以上	0	0	0	50種類以上	
		入院中の方のみ可	入院中の方のみ可					入院中の方のみ可
6 利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン	プリンター				コピー機		
	設置あり	設置あり				設置なし		
7 問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数字で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	06-6929-1221			(内線)			
	直通1				直通2			
8 対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1 人		ボランティア				2 人
	事務職員	1 人						人
		人						人
9 ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施							

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1 院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。						
2 図書等が設置されている場の名称								
3 図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し							
※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス							
4 利用者の制限	制限なし	その他						
5 医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図書	医学専門書	一般向け医療系図書	雑誌	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌	医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
6 利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン	プリンター				コピー機		
7 問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数字で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表				(内線)			
8 対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1 人		ボランティア				2 人
		人						人
		人						人
9 ピアサポーターによる対応(実施/未実施)								

OK

未入力あり

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター

	年間新規症例数(※) (令和2年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (令和2年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	36	固形腫瘍合計	71
ALL	14	神経芽腫瘍群	9
AML	4	網膜芽腫	0
まれな白血病	0	腎腫瘍	5
MDS/MPDのうちCML	0	肝腫瘍	1
MDS/MPDのうちCMLを除く	2	骨腫瘍	5
Non-Hodgkin Lymphoma	7	軟部腫瘍	4
Hodgkin Lymphoma	2	胚細胞腫瘍	1
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	38
組織球症(HLH)	2	その他(診断名も記載すること)	甲状腺癌2、大腸癌3、胃癌1、副腎髄質癌1、舌癌1
組織球症(LCH)	4		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM登録	1		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 大阪市立総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在

(研修会等の回数は令和2年1月1日～12月31日)

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	7
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	3
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	4

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数: 4

OK

プログラム名	期間	対象者 例 医師卒後 〇年～〇年	R1 年度 (人)	R2 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先					プログラムの特徴
						自施設 (人)	自施設以外				
							大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)	その他 (人)	
1 小児総合診療コース	3カ月	医師卒後 2～3年	2	5	23	9	3	4	6	1	小児科後期研修の一環 血液腫瘍疾患の急性期や緊急対応が可能な小児科医を育成する。
2 小児総合診療コース	1年	医師卒後 4年	0	0	0	0	0	0	0	0	専門コースの準備のためのステップ
3 小児血液・がん専門医育成コース	3年	医師卒後 5～7年	3	3	6	1	3	1	1	0	小児血液・がん専門医育成のためのプログラム 主治医として、かつ前期レジデントの指導者として教育を受ける。
4 小児がん・緩和ケア短期研修コース	1年	医師卒後 2年以降	0	0	0	0	0	0	0	0	多施設で小児がん・血液専門医の研修を受けている小児科医に対し、自施設では経験が不足する分野(脳腫瘍医療、ハプロ移植、小児緩和ケアなど)を補うためのプログラム
5											

相談支援センターの体制、相談件数と相談支援内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。 あり #REF!

病院名: 大阪市立総合医療センター
 時期・期間: 令和3年9月1日現在

職種	常勤/非常勤	専従/専任/兼任	相談業務の 経年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
				基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1 看護師	常勤	専従(8割以上)	6	受講	受講	受講	受講
2 看護師	常勤	専従(8割以上)	2	受講	受講	受講	未受講
3 看護師	常勤	専任(5割以上8割未満)	2	受講	受講	未受講	受講
4 社会福祉士	常勤	専任(5割以上8割未満)	23	受講	受講	受講	受講
5 その他(がんライフアドバイザー)	非常勤	兼任(5割未満)	6	未受講	未受講	未受講	未受講
6 その他(両立支援促進員)	非常勤	兼任(5割未満)	3	未受講	未受講	未受講	未受講
7 その他(就職促進指導員)	非常勤	兼任(5割未満)	3	未受講	未受講	未受講	未受講
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

●年間の相談総件数(令和2年1月1日～12月31日) 195 件 OK
 上記1件あたりの平均対応時間 平均 25 分

相談件数(令和2年1月1日～12月31日)

相談者	計
1 自施設の患者・家族	181
2 他施設の患者・家族	14
合計	195

相談支援内容	相談支援の対象者
※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。	
例 がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1 小児がんの病態、治療(治験を含む)をはじめ患者さんやご家族の不安に対する相談(相談対象を小児だけでなく、AYA世代まで幅広く対応しています。また、近畿圏内だけでなく日本全国及び海外にお住まいの方からの相談にも対応しています。)	自施設と他施設の患者・家族 OK
2 患者さん、ご家族からの復学(復園)支援相談(入院時より専門の相談員が関わり、退院後まで対応しています。)	自施設の患者・家族
3 セカンドオピニオンについての相談、受入(小児がんの患者さんに限定し、面談だけでなく、書面によるセカンドオピニオンを実施しています。)	他施設の患者・家族
4 院内専門チームとの連携(院内で継続したサポートが必要な場合は、多職種で構成されるこどもサポートチーム等と連携し、患者さんや家族のニーズに対応しています。)	自施設の患者・家族
5 地域医療機関との連携及び情報提供(地域医療機関と連携して患者さんがスムーズに治療継続できる様調整しています。また、地域医療機関の情報収集により必要に応じた情報提供をしています。)	自施設の患者・家族

相談支援センターの問い合わせ窓口

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

※成人の拠点病院現況報告書の様式と同様で、コピーペーストが可能です。 病院名: 大阪市立総合医療センター
 時期・期間: 令和3年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	がん相談支援センター				OK	
2	問い合わせ先電話番号	06-6929-3632	(内線)				
3	■対面相談の実施(実施/未実施)	実施					OK
	予約の要否(必要/不要)	不要					
	■電話相談の実施(実施/未実施)	実施					OK
3	電話番号	06-6929-3632	(内線)				
	予約の要否(必要/不要)	不要					
	■FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施					OK
4	FAX番号						
	■電子メール相談の実施(実施/未実施)	未実施					OK
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください						

小児がん患者団体との連携

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター

時期・期間: 令和2年1月1日～12月31日

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

連携協力している小児がん患者団体		具体的な連携の内容 (例:月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)	
団体名	団体の参加対象者		
1	NPO法人 エス・ビューロー	患者・家族・支援者	年に一度、患者・家族・医療者・支援者等を対象とするセミナーやワークショップの開催
2	NPO法人 ゴールドリボンネットワーク	患者・家族・支援者	小児がん経験者の就労、患者の治療のための交通費助成やチャリティーウォークイベント・患者支援イベントの開催
3	認定NPO法人シャイン・オン・キッズ	患者・家族・支援者	peesオブカレッジプログラムの提供、対象患者へのオンラインプログラムの提供、職員対象の勉強会や講演会の開催
4	一般社団法人子どものホスピスプロジェクト	患者・家族・支援者	終末期の子どもたちに対する院外レクリエーションやつるみ子どもホスピスでの滞在の提供。ピリブメントケア。スタッフが院内のカンファレンスに参加
5	しぶたね	支援者	入院中患者のきょうだいの預かり保育
6	クリニックラウン	支援者	月1回のクリニックラウンの病棟訪問
7	NPO法人ジャパンハート	支援者	終末期の小児がん患者の外出や旅行の支援
8	リレー・フォー・ライフ大阪あさひ	患者・家族・支援者	年に一度のがん患者支援イベント・講演会の開催、小児患者・家族・職員がフラッグづくりとルミナリエバッグ作成に参加
9	がんの子どもを守る会	患者・家族	アフラックペアレントハウス(宿泊施設)の提供、相談支援、クリスマスプレゼント寄贈
10	みんなのレモネードの会	患者・家族	患者同士の交流、小児がんの啓発活動、クリスマスプレゼント寄贈

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター
 時期・期間: 令和3年9月1日現在

【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口						
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					相談支援センターが窓口となっている	OK
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
窓口の名称						
1	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
電話		代表	(内線)			
		直通				
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					相談支援センターが窓口となっている	OK
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
窓口の名称						
2	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
電話		代表	(内線)			
		直通				
【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特に対症療法)】の問い合わせ窓口						
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					相談支援センターが窓口となっている	OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
窓口の名称						
1	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
電話		代表	(内線)			
		直通				
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					相談支援センターが窓口となっている	OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
窓口の名称						
2	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
電話		代表	(内線)			
		直通				
【治験】の問い合わせ窓口						
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について					相談支援センターが窓口となっている	OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
窓口の名称						
1	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
電話		代表	(内線)			
		直通				
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					相談支援センターが窓口となっている	OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
窓口の名称						
2	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
電話		代表	(内線)			
		直通				

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 大阪市立総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備(調理スペース、ランドリー、プレイルーム等)、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**1枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙14を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 なし (あり/なし)

ファイル形式 (ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

場 所	都島センタービル 8階 (所在地) 大阪市都島区中野町5丁目15-21 大阪市立総合医療センター隣接ビル (同一敷地内 西側) ※ 病院正面玄関から114m、徒歩2分	【周辺地図】
広 さ	面積: 28.27㎡~29.89㎡ 間取り: すべて1K (バルコニー有り)	【施設(8階)間取り】
部 屋 数	全8室	【施設内の風景】
設 備	冷暖房完備、フローリング床、キッチン、バス、トイレ付。	
備 付 備 品	テレビ、冷蔵庫、湯沸かしポット、掃除機、テーブル、ふとん、洗濯機 ※乾燥機は病棟にあり。	
使 用 料	一泊あたり1,200円	
そ の 他	施設の管理・運営は病院(直営)による。	
※当センター附属施設以外に、これに準ずる施設としてアフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)とがんの子供を守る会が運営する『アフラックベアレンツハウス大阪』 (URL http://www.afiac.co.jp/corp/mesena/parentsouse_04.html)も案内している。		

PDCAサイクルについて

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: **大阪市立総合医療センター**

時期・期間: **令和3年9月1日現在**

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ① 院内の見やすい場所に掲示している はい (はい/いいえ)
- ② 院内誌、チラシ等で広報している いいえ (はい/いいえ)
- ③ ホームページに掲載している はい (はい/いいえ)
- ④ ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください
- ⑤ 地域の広報誌等で広報している いいえ (はい/いいえ)
- ⑥ その他の方法で掲載している いいえ (はい/いいえ)
- ⑦ その他の方法がある場合、内容を記載してください

OK
OK
OK
OK
OK
OK

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 緩和ケア研修会受講者の増加	がんに携わるすべての医師の受講率向上	各科の部長に受講状況を確認する。
2 患者満足度の向上	入院・通院患者の治療環境の向上を目指す	入院・通院患者へ、年1回患者アンケートを行う。
3 患者・家族の満足度の向上	入院・通院患者及び家族の治療環境の向上を目指す	常設しているご意見箱「皆様の声」へ投かんされた内容への対応。
4 QI活動	病院全体で医療の質改善への取り組みを実施し、より質の高い医療を患者に提供する	病院全体(各部門)で医療の質改善への取り組み(QI活動)を実施し、共有する。
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	未受講者リストを作成し、啓発文と開催予定表を診療部長及び未受講者へ直接配布する。医局へ開催予定表を掲示する。
2	年1回アンケートを実施し、結果を前回のものと比較分析し、患者サービス向上委員会より対策を講じる。
3	投かんされた内容を関係部署にすぐにフィードバックし、病院幹部まで決裁を取り、必要に応じて患者サービス向上委員会対策を講じ、2か月に1回院内に周知する。また、予算が必要なものは事務部門会議で予算措置の了承を得る。
4	年度ごとに、病院全体(各部門)で医療の質改善への取り組み(QI活動)を実施し、共有する。
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙15を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

- 別添資料の提出有無 なし (あり/なし)
- ファイル形式 (ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)
- その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

P	→	D	→	C	→	A	→	P
Plan(計画)		Do(実施・実行)		Check(点検・評価)		Act(処置・改善)		
年間								
管理運営会議 ・病院の方針を策定し、 必要な基準の決定		各委員会 ・具体的な実施案の提案 当該部署 ・決定事項に沿って実施		当該部署 ・実施内容について検証・評価 改善策の検討 各委員会 ・検証・評価内容の報告及び 改善策の承認		当該部署 ・承認された改善策の実施		

医療安全体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: **大阪市立総合医療センター**

時期・期間: 令和3年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報を記載しないよう注意すること。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、当該医療機関が定める1週間の就業時間のすべてを勤務している者をいいます。ただし、当該医療機関が定める就業時間が32時間に満たない場合は常勤とみなしません。「医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について」(平成10年6月26日付け健政発第777号・医薬発第574号、厚生省健康政策局長・医薬安全局長連名通知)の別添「常勤医師等の取扱いについて」を参照

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全管理部			OK		
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー							
No.	部門	職種	常勤/非常勤	専従/専任/兼任	医療安全に関する研修の受講状況(注4)		
					受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	専任(5割以上8割未満)	明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム	名古屋大学医学部附属病院	2016年3月24日
2		医師	常勤	兼任(5割未満)	医療安全管理者養成研修	公益社団法人大阪府看護協会	2018年12月15日
3		医師	常勤	兼任(5割未満)	最高質安全責任者(CQSO)養成研修	名古屋大学医学部附属病院	2021年5月22日
4		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	公益社団法人大阪府看護協会	2016年1月16日
5		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	公益社団法人大阪府看護協会	2018年12月15日
6		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	公益社団法人大阪府看護協会	2017年12月15日
7		看護師	常勤	専従(8割以上)			
8		看護師	常勤	専従(8割以上)			
9		薬剤師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者リスマグマネンジャー認定実務講座	一般社団法人日本病院管理機構日本メディカル	2019年9月18日
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

■上記一覧において「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

No.	職種
例	臨床工学技士(上記リスト6番)
1	
2	
3	
4	
5	

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		がん相談支援センター			OK		
電話	直通	06-6929-3632					
	代表	06-6929-1221	(内線)				